www.vill.ohkura.yamagata.jp

おおくら

議会だより

未来の村政を担う中学生

風水にふれる里
第138号
2024.新春

もくじ

新春を迎えて …… 2P
定例会 …… 3P
一般質問 …… 4～11P
委員会報告 …… 12～13P
中学生議会傍聴の感想 …… 14P

発行／
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地
大蔵村議会 0233-75-2111
編集／議会広報常任委員会　年４回発行
発行責任者／議長 海藤邦夫
印刷／共栄印刷株式会社

年頭のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

村民の皆様には輝かしい希望に満ちた初春を迎えられたことと、心よりお喜び申し上げます。

日頃より議会活動に対しまして、御支援と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は4年に一度の統一地方選挙がありました。村議会選挙では、定数10名に対し立候補者が10名と選挙が無く、無投票当選となったのは村政施行以来初めての事です。

議員のなり手不足は全国的な問題であり、定数に満たないという自治体もあるようです。

今後は、若者・女性議員のなり手として村政に携わってもらえる様な環境を整え、村の人口減少問題も考慮しながら、議会改革を進めることが重要な役目だと考えています。

また役場新庁舎建設では、移転先など議会でも議論を重ね場所も決定し、令和6年度から地質調査等が行われる予定になっています。これから庁舎の設計に入りますが、村民の皆さんの負託に応え、使い勝手の良い、大蔵村にふさわしい庁舎になるよう議会として要望していきたいと思いますので御協力をお願いいたします。

最後に、今年の干支は辰年。何事も昇り龍の様に前向きに捉え、農業・産業が実り多き年になればと思います。

村民の皆様の幸多き一年となりますよう心から御祈念申し上げ年頭の挨拶といたします。

議会議長　海藤　邦夫

本年もよろしくお願いします。

議長　海藤　邦夫
副議長　加藤　忠己
議員　鈴木　君徳
〃　八鍬　信一
〃　佐藤　勝
〃　早坂　民奈
〃　佐藤　雅之
〃　斉藤　光雄
〃　須藤　敏彦
〃　伊藤　貴之

新副村長決まる！

12月定例会

12月定例会が7日から8日にかけて開催され、令和5年度補正予算9議案を含め、14議案を審議・可決。

一般質問では7人が村や地区の問題点、村の姿勢を当局に問い活発な議論が交わされました。また、議会には大蔵中学校3年生などの傍聴者も多く、注目度が高い会議となりました。

専決処分

◉令和5年度一般会計補正予算

・冬のあったか応援灯油券給付事業補助（65歳以上と障がい者の世帯）280万

・農業水利施設電気料金高騰対策支援事業補助金△150万

来年も継続して欲しい

◉令和5年度簡易水道事業特別会計補正予算

・四ヶ村地区給水作業業務委託料300万

夏の渇水による水源の不足、給水車による配水池への水の供給

条例等の改正

＊大蔵村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定

国保加入の出産被保険者の産前産後の税軽減

＊大蔵村一般職・特別職の給与一部改正に関する条例の制定（2件）

（人事委員会の勧告により給料・期末手当等の改定を行うもの）

＊会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定

（地方自治法の一部改正に伴うもの）

令和5年度補正予算

＊令和5年度補正予算7議案を審議・可決

・公立中学校可搬式冷房機器導入支援事業補助金

4基のスポットクーラーの導入

・価格高騰分の灯油購入費支援事業扶助費

・電力・ガス・食料品等価格高騰緊急重点支援給付金

質疑応答

問　鳥獣捕獲罠設置費補助金。

答　駆除1回につき3万円補助。

問　来年度以降のコロナワクチン接種料は。

答　全額は未定だが助成予定で検討中。

問　味来館の指定管理者は。

答　次年度以降は未定。これから公募する。

人事案件

＊副村長の選任に同意

越後　享　氏（金山）新任

請願の審査

健康保険証を廃止せず存続を求める意見書提出を求める請願

・請願者　山形市飯田西1―2―30

山形県社会保障推進協議会

会長　高木　紘一

請願の事項

マイナンバー保険証への一本化を見直し、従来の健康保険証も継続できるよう、国に対して意見書を提出する請願

審査結果　採択

マイナンバーカードを健康保険証として利用できるマイナ保険証については今後進めて行くべきだが、トラブルも相次ぎ、一体化するには拙速であり、現在の保険証を廃止せず存続を求める必要がある。

10月・12月補正の詳細

	補正額	総額	主な補正内容
一般会計	1億120万円	43億2,150万円	灯油購入費補助 いでゆ館改修等
国民健康保険	2,550万円	4億4,310.8万円	被保険者療養給付費
簡易水道	687.9万円	1億7,244.9万円	水道管理費
下水道	101.6万円	1億4,928.8万円	下水道管理費 備品購入
診療所	208.8万円	2億2,151.9万円	管理費・委託料
介護保険	291.9万円	4億5,250.2万円	介護保険システム改修

ここが知りたい

村政を問う

一般質問
12月
定例議会

河北町庁舎前にて

一般質問とは？

村政全般に対し議員が質問し、意見を述べ村政をただしていくもので、大蔵村では１議員の持ち時間が45分です。

7議員が一般質問

5P 佐藤　勝 議員
○村が保有する遊休財産の利活用は

6P 加藤　忠己 議員
○防災行政無線について

7P 佐藤　雅之 議員
○物価高騰対策で上水道基本料金減免を
○第9期介護保険制度の見通しは

8P 須藤　敏彦 議員
○地域おこし協力隊の応募、採用の現状は
○小さな村の人口交流拡大

9P 伊藤　貴之 議員
○新規就農者を増やすための村の取り組みは

10P 八鍬　信一 議員
○農業集落排水の整備

11P 早坂　民奈 議員
○明るい未来にするために

今回、12月定例会の紹介は見出しだけでなく一般質問の内容も「くらっち」に掲載されてます。

今回、12月定例会の初日に、大蔵中学校の3年生の方々が「公民」の授業の一環として議場にお越しいただきました。一般質問を行う議員・執行部もいつもと違う緊張感の議場の一時でありました。今後大人になり、村政を担う立場として議場に立つ日を期待しております。大蔵中学校3年生の皆さん、傍聴いただきありがとうございました。

（おおくらくんより）

村が保有する遊休財産の利活用は

村長　利用できるものは最大に活用

佐藤　勝 議員

村で保有し、活用していない遊休財産が数多くある。例えば、「いでゆ館前の広場」・「旧葉山館の跡地」・「湯の台直売所の跡地」・「四ケ村地区にある克雪センターの土地と建物」・「旧沼の台保育所の広場と遊具」等、その他村内各地にこれら等類似した物件が多く見受けられる。

取得当時は、先行投資の意味も含めて、多額の投資をして取得したものと思うが、現在までその利活用計画などは全く示されておらず、ただ放置されている。また、偶然かもしれないが、肘折や四ケ村地区に集中しているが、これは何を意味しているのか？

更に、維持管理にも多額の経費を要しているので、何の目的もなく取得した訳ではないと思うので、これ等の取得金額や維持経費、更に、活動計画を具体的に伺いたい。

「いでゆ館前の広場」

問　冬は雪だるまの設置やイベント会場として利用しているが、夏の間は草が生い茂り、観光客からの評判は良くない。芝や花などを植えて入浴客の憩いの場にしてはどうか？

答　取得価格は1，870万円、管理は肘折地区に委託している。「おおくら雪物語」等のイベントの際、駐車場や雪を観光資源にしていくためには欠かせない土地である。

「旧葉山館の跡地」

答　取得価格は490万円。用地利用については、「戸沢・大蔵線」の改築事業を見越して先行投資したもので、当時は観光農園地にする計画であったが、まだ何の利用もない。

「湯の台直売所の跡地」

問　スキー場の駐車場として利用しているが、夏は放置したままになっている。環境も良く、隣接する畜産会社も撤退する話があり、広大な場所をオートキャンプ場などにして誘客を図ってはどうか？

答　工事費3，175万円で建設したが、建物の老朽化のため解体し、現在はスキー場の駐車場として利用している。

「克雪センターの建物と土地」

問　旧国交省が雪を克服しようとして建設した物で、概成後、村に移管し保育所として活用していたが、閉園後の活用はない。建物の老朽化により住居としては使えないが、地区の状況を考えた時、個人で農業を維持していく事が困難な時期に来ている。

法人化や、棚田米専用のカントリーエレベーターや農産物加工場等に活用して、地域維持の拠点に出来ないものか？

答　考えは同じ。建設費は2，207万円。概成後保育所や地域の集会場として利用していた。今後は維持管理も含めて公募し、貸し出しなどを行ってきたい。

「旧沼ノ台小中学校跡地と保育所の遊具」

問　小中学校や保育所が閉鎖されて数年経過した。保育所の遊具等は、草むらに放置されたままである。この場所は、男沼・長沼・ブナ林の入り口である。更に、ヘリポートや歴史ある「馬頭観音」の参道でもある。今の様に放置しておいては訪れた人達に取り残された集落の様な印象を与える。村の中心地以外でもきちんとした管理が必要ではないか？

答　遊具などの設置金額が146万円、維持費が年間27万円。遊具に関しては、移設費用経費が高額のため断念した。広場はイベントの際草刈りなど行っている。今後、すべてではないが利用できる物は最大限に活用していく。

加藤　忠己　議員

防災行政無線について

村長　聞き取りやすい音声に改善

問1　防災行政無線は村内の災害情報や行政情報を村内一斉に放送するものである。現在AIの声で放送しているが、聞きづらいし、何を放送しているのか分からない。なぜAIの声での放送なのか、放送が聞こえても内容が分からなければ防災行政無線とは言えない。「くらっち」やエリアメール等の情報の伝達方法はあるが、住民への情報の伝達手段の中心的な役割を果たしている。放送内容が分かるように早急に対処すべきである。

答1　今年度は2点の改良を行った。1点はAIの音声を明瞭にする為の発生装置を改良した。2点目は野外スピーカーから一斉に音が流れ、近隣の野外スピーカーの音が共鳴する事がないように2つのグループに分けて、干渉が起きにくいようにした。

　村では、全戸にタブレット端末を配布し、音声での情報の聞き逃しや聞き取れない時はタブレットの文字情報で確認する仕組みを構築した。個人のスマートフォンにも導入できる仕組みである。AIは聞き取りにくい面もあるが、音声の改良に意を配しながら、音声の改良に努めていく。

問2　数年後には「くらっち」が伝達方法の主流になるはずで、「くらっち」は防災無線の機能強化のアプリである。そのタブレットは何世帯に設置されているか。また、スマートフォンやタブレットに「くらっち」を登録している人は何人か。最高年齢は何歳か。

　高齢者の方はスマートフォンやタブレットを利用しないという通説を覆そう。使い方を覚え、自分に必要なアプリがあれば便利に使いこなし、「くらっち」も高齢者に必要と認識されれば登録数が増えるはず。

答2　「くらっち」のタブレットは村内全世帯に配布している。スマートフォンに「くらっち」を登録している人は現在748名で、最高年齢は80代。

　9月から始めたデジタル推進室と教育委員会共催のスマートフォン講習会を通じて、高齢者の方々を中心に10数名の方に「くらっち」を登録して頂いている。

　「くらっち」の使い方の説明や、スマートフォンへの登録の説明について伺うので連絡ください。

問3　今後、「くらっち」をどのように利用するのか。また、村長は令和5年度にデジタル推進室を設置した。行政DXをどのように考えているのか。

答3　「くらっち」をバージョンアップし天気予報等のアプリも簡単に使える様にする。行政DXについては次の事柄を主軸に進めていく。

①村民に分かりやすいDX
②村民に喜ばれるDX
③デジタル苦手者の解消

佐藤　雅之　議員

物価高騰対策で、上水道料金の減免を

村長　厳しい経営状況で減免は困難

問1　食料品や燃料などを中心に物価高騰が急速に進んでいる。最低賃金の一定の引上げや国の減税、給付金政策は打たれつつあるが、「防衛増税」や各種負担増が懸念され効果は限定的だ。本来は消費税の緊急減税など、国の政策の転換が必要。負担を軽減するために一般家庭や事業所に対して簡易水道上水道基本料金を一定期間減免してはどうか。

答1　国は11月、デフレ完全脱却のため住民税非課税世帯1世帯当たり7万円の現金給付の方針を閣議決定した。村では、升玉水力発電地域還元や物価高騰対策として全世帯に商品券を配布し、住民の生活支援をしている。また、低所得者世帯や65歳以上のみ世帯などへ、県事業に加え村独自事業として灯油券を配布し、燃料費の高騰対策に努めている。

　村の水道料金は、最上管内で一番低く、維持管理費など本来独立採算でおこなうべきものも、不足分を一般会計から繰り入れるなど厳しい経営状況。食料品や燃料等の値上がりを踏まえ現状の料金体系を維持しており、減免は難しい。

問2　国は、閣議決定で5000億円の「重点支援交付金」を給付するとある。村には、いくら入るのか。それを使って水道料金の減免をできないのか。国は年内の予算執行を求めているが、何に使うつもりか。

答2　村には約1700万円入る。この予算が来年度に繰越できるかどうかにもよるが、使い道はまだ決まっていない。水道料金の減免は考えていない。

第9期介護保険制度の運営は

村長　サロンなど、介護予防活動の成果を生かす

問　介護保険制度も令和6年度から第9期を迎える。第8期は、第7期の保険料が過大であったため第1号被保険者の標準月額保険料は、5,800円に引き下げられた。第8期も、コロナ禍でサービス控えにより、結果として保険料徴収が過大となっていると推測する。他方今後はコロナ収束によるサービス量の増加、介護職員の処遇改善等で保険料は引上げになると思われる。介護職員等の処遇改善は必要かつ急務の課題。しかし、それが直接保険料の負担増になることは避けなければならない。どう考えるか。

答　高齢化が進む中で、保険料の増加を抑えるには、要介護リスクの抑制等が喫緊の課題。介護予防の取り組みとして、介護予防大会「ピンピンピック」や介護予防教室、「サロン」、村公式の「ワナゲ大会」などがある。サロンなどの通いの場は要介護リスクの軽減に有効との医学的実証もあり、本村でも確実に健康寿命を伸ばしている。第8期の保険料の引き下げは介護予防活動の成果。今後は新型コロナウイルスの5類移行に伴う介護サービス量の増加、介護職員等の処遇改善や物価高騰などから介護報酬の改定も予定される。第9期も介護予防活動に努めながら保険料の適正化を図る。

須藤　敏彦　議員

地域おこし協力隊、募集・採用状況

村長　募集の継続・集落支援員の募集を検討

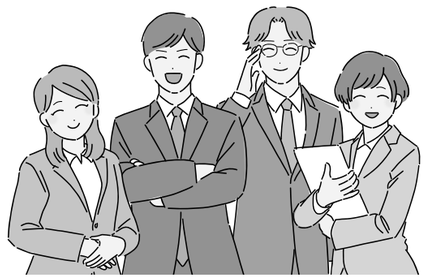
問　地域おこし協力隊の募集を始めて10年くらいになるが、募集、採用状況をお聞きしたい。また、全国的な人口減少の中、村も中山間地域では耕作放棄地が拡大しつつある。集落の在り方について共に考える人材が欲しいと思うが考えを伺いたい。

答　地域おこし協力隊は、人口減少・高齢化が進む本村において都市部の意欲ある人材を積極的に受け入れ、新たな視点や発想により地域力を向上させ、地域コミュニティーの維持と活性化を図る目的で募集を行っている。

募集開始から20代から30代の7名から募集があり、そのうち協力隊として採用、活動をしていただいたのは平成27年度1名となっている。

地域おこし協力隊の応募動機として、応募地域に何かしらの縁があり、先任の隊員がいることなどが動機に繋がっている傾向にある。また、応募者の活動と行政の目的とのマッチングがうまくいかないケースもあり、考え方のすり合わせに困難さを感じている。

しかし、地域課題への対応について外部からの視点による意見も必要と考えている。今後も募集を継続すると共に集落支援員の募集を検討していく。



小さな村の人口交流拡大

村長　村全体で積極的に活用が重要

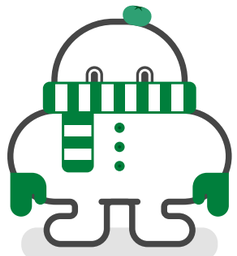
問　新型コロナウイルスも収束し経済・観光をはじめとして人々の交流も戻りつつある。そこで村の美味しい農産物をはじめ、蔵元・温泉・棚田など素晴らしい交流条件が整っていると考える。

村の人口も2030年には2350人と推測される状況で村の特徴を生かした交流人口拡大へ繋がる施策が必要と思うが考えを伺いたい。

答　村には全国に誇る地域資源が豊富に存在している。その価値を再認識し、村全体として積極的に活用していくことが重要であると考える。

時代と共にその地を訪れる目的・観光スタイルも変化している。今後は、交流人口にこだわることなく、地域に強い愛着を持って深く関わりのある人、いわゆる関係人口の拡大を目指した取り組みを推し進める必要があると考える。

地域資源を生かした関係人口の拡大事業においては、現在行われているイベントの支援を充実すると共にオンラインイベントの開催やふるさと納税の返礼として米づくり体験など、村内各地の特色を生かした取り組みを地元との情報交換しながら進めていければと考える。



伊藤　貴之　議員

新規就農者を増やすための村の取組は

村長　積極的に行政が後押し

問1　私は大学卒業後、約20年間農業、特にトマト栽培に従事してきた。農業は天候と相場に左右される不安定な職業である。しかし現在大蔵村では先人のご努力のおかげもあり、農業という仕事で生計を立てられている。村の農業経営を見ると、1000万以上の収入のある農家の割合は大蔵村が14％以上と、最上郡内では高い。これは金額面で稼いでいる農家が多いということだ。しかし近年は新規就農者が減りつつある。新規就農者に対する国の施策は、要件はあるが、年150万円の支給等と、手厚いものがあり以前より取り組みやすくなっている。私自身、農業は魅力的な仕事だと思っているので、新規就農者を増やすための村の施策や方針を伺いたい。

答1　本村はここ11年で19人の新規就農者を獲得した。担い手不足が著しい現状から、新規就農者の確保対策は重要な課題の一つである。国の施策も手厚いものがあり、その支援については農水省のホームページで確認でき、村産業振興課でも相談できる。そのほかに大蔵村でも経営開始資金を国から受ける初年度に、50万円のかさ上げ措置等の、村単独の支援を行っている。これらについては今後も継続してゆく。また農業者自らが、農業は生業として魅力のある職業であるということを、積極的にアピールする必要がある。農業者の生の声が職業選択を考える若者の心に深く刺さるのではないか。そして令和6年4月に東北農林専門職大学が開学する。本村でも数名の農家から、学生の受け入れを表明してもらっている。村としても同大学の運営に積極的にかかわりを持ち、農業を目指す若者の獲得を後押ししたい。

問2　生の声が心に深く刺さるとあるが、伝える機会が少ない。行政側の取り組みは？

答2　今年の春、村長として大宮中央青果市場にトップセールスで行ってきた。大蔵小学校3年の児童が書いた、大蔵村のトマトを紹介するポスターが非常に好評だった。このようにいろいろな形でアプローチしていく。また、金額面で稼いでいる農家が多いのは、長年の投資が実ってきたということだ。費用対効果を狙うためにも、就農者への応募が増えるようにさらに広めていきたい。また農業は儲かるということも併せて広めたい。

八鍬　信一　議員

農業集落排水整備は必須

村長　水路改修も検討し合併浄化槽進める

問1　旧赤松学区（赤松・烏川・通り）については、生活排水処理として合併浄化槽設備が平成17年から整備されている。

　ところが、設置数が増すたびに地区内を巡る水路の汚濁が目立ち、夏場には悪臭が漂う状況にある。水路の底部に汚泥が付着し悪臭の原因となっている。

　また、今年の夏には渇水により水路に水が流れず、特に匂いが酷くなり蚊や蝿の発生を媒介した。

　このように環境汚染が進む中での改善策として、農業集落排水整備が有効と考えるがどうか。

答1　現在、村の生活排水の処理状況については、清水、合海、白須賀、上竹野、上熊高、肘折で公共下水道による処理を行っている。

　一方、令和5年3月31日現在、合併処理浄化槽の普及率は56％と、鈍化傾向にあり、旧赤松学区における合併浄化槽についても、60％程度となっている。

浄化槽整備が普及するにつれ水質が悪化しているとの事だが、年3回の保守点検、年1回の清掃及び法定検査等の維持管理をおこない、適正な水質となっていることを確認している。

　平成16年に村設置型浄化槽整備事業で行うことで取り組んできた。

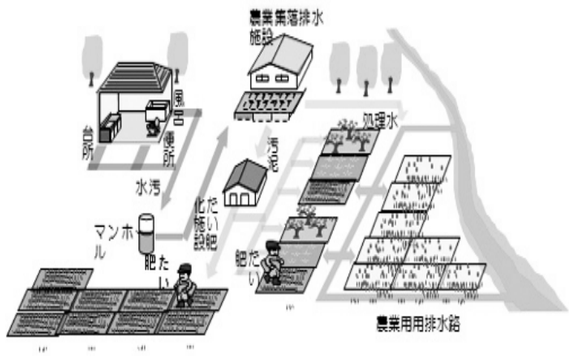
問2　適正な水質と言いますが処理排水が流れることで、現実は水質汚濁と悪臭が発生している。

　当時、農業集落排水事業の話も出たが、着工まで時間がかかりすぎるとの村からの話があり、合併浄化槽になったとされている。

　現在、3地区での合併浄化槽設置状況は、赤松67世帯に対し37件設置・烏川57に対し33・通り20に対し16、全体で144世帯に対し86件の設置で普及率60％、残り40％は未設置になる。一番の要因は住宅環境に排出する水路がないこと。

　農業集落排水となれば、排水管を設置することでこれらの問題は解決する。

答2　浄化槽整備事業から農業集落排水事業に計画を変更した場合、既に合併浄化槽を設置されている方にさらなる負担を強いることや、補助金等の返還も発生するなどの問題が生じてくるものと考える。



農業集落排水事業のイメージ

早坂　民奈　議員

明るい未来にするために

村長　教育委員会と協議していく
教育長　前向きに充分検討していく

問1　前回の質問より人口減少を止める妙案はないかと考えていたが、流出を防ぐには若い方が戻ってくれることが一番。それには若者、親、祖父母世代との話し合いの場を積極的に設け、特に高校生、中学生の意見を取り入れる「村長と語る会」の開催を検討してはどうか。中学生を悔ることなかれ、大人よりも柔軟な考え方で明るい未来に変えてくれることを信じて是非実現して頂きたい。

答1　**村長**　毎年の様に「村長と語る会」を実施しており、コロナ期間を除き10年行ってきた。今年も12地区143名の参加者であった。今回の提案は私も大事なことだと認識している。しかしながら学校生活の貴重な時間を割くことは慎重に考えなければならない。大変意義深いことであり、学校側の意見を伺いながら、教育委員会とも協議していきたい。

教育長　総合的な学習で「美しい村プロジェクト」を行い村のPR活動調査研究を発信している。「語る会」の提案は有意義であり、前向きに検討したい。改めて設けると予習などが必要となるので、学校や関係機関等の意見を頂き調整し、充分検討していく。

問2　子ども会議を積極的に行っている市町村があるが、予習等が必要なら、授業の一環として、村長が出向き、「語る会」ではなく、形式ばらない、ただ意見を聞くだけの「意見を聞く会」でも良いのではないか。

答2　**村長**　「語る会」を女性、若者と限定したこともあったが、諸般の事情により、難しかった。今回の「意見を聞く会」は前向きに考えたい。

教育長　「村プロ」は今後も行い、総合学習の中で発表や具現化できることは行っていく。「意見を聞く会」については、カリキュラムに組み込むことも前向きに検討していく。

問3　若者だけでなく、高齢者や、女性等の「意見を聞く会」を是非実現し、村民の声を聞き、明るい未来にして頂きたい。

答2　要望があれば是非行いたい。

委員会報告書

産業建設常任委員会所管事務調査報告

令和5年9月22日、村内各地で施工されている災害復旧工事と基盤整備事業の調査を行いました。塩地区の復旧工事現場では、自然災害の恐ろしさと恐怖を実感した。その状況の中で、工事に携わっている作業員の皆さんには敬服しました。

柳渕の現場では、まず、災害規模の大きさに愕然とすると共に、工事内容の説明を受け、自然災害の恐ろしさと工事の難しさを痛感しました。

深沢地区の道路は県の速やかな対応があり、既に完了していて、夏の間は通行に問題はないが、県道や冬期間の事を考えた時、全線の改良を県に強く要望する必要があります。

滝ノ沢地区の地すべり対策事業では、60年以上経過した排水路は、コルゲートの腐敗や落石等で、閉塞している箇所が多く、排水路の機能を果たしていない。このまま放置しておけば災害を誘発すると想定されるため、早急な対応が必要と思われます。

上山橋上流の地すべり復旧工事は、大規模な災害であったが、地元の要望以上の工事が行われていて、農地や水路の保全、下流集落への影響も少なくなると思われます。

熊高地区の基盤整備事業は県の持続事業であり、村の農業発展の為、計画通りの進行を願うものです。

最後に、いずれの現場においても重機や資材は整理が行き届いており、また、作業員の安全対策も万全であり心強く感じました。参考までに、調査した現場の災害復旧費は約42億円であり、これは村の年間予算に匹敵する予算であります。多額の予算を計上して頂いた国や県に対し、心から敬意を表します。

〈産業建設常任委員長　佐藤　勝〉

総務文教常任委員会研修報告

令和5年11月21日、中島輝美村住民税務課長を講師に国民健康保険制度の基礎や村国保の課題等をテーマに研修をおこないました。国民健康保険は、平成30年度から県と市町村が共同で国保事業を運営しています。さらに、令和6年度から令和11年度までを対象期間とする「第2期山形県国民健康保険運営指針」（案）では各市町村が県に納める「納付金」及び「保険税」を徐々に「統一化」し、平準化の方向で進めていることを学びました。大蔵村のような人口（被保険者）が少ない自治体では、国保財政が不安定になりがちです。近年は「基金」を活用した保険税引き下げを行っていますが、令和3年度の県内市町村別一人当たり医療額は、大蔵村が最も高く、負担増を緩和する上でも「納付金」、「保険税」の県内平準化が強く求められると感じたところです。また、令和6年秋ごろ予定されている各健康保険証の廃止とマイナンバーカードへの紐づけについても実情を学び、「限度額適用認定証」の準備が不要なことやデータに基づく医療の実現、医療費控除の簡略化などの「紐づけ」のメリットがある反面、マイナンバーカードを持たない人の資格確認方法などに課題を残すこともわかりました。当委員会では引き続き各種研修等を深めてゆく予定です。

〈総務文教常任委員長　佐藤　雅之〉

広報常任委員会　研修に参加して

見やすい分かり易い広報づくりのために研修が毎年行われております。今年は7月19日山形ビッグウイングにて、今回は「クリニック」を専門家にして頂きました。

ビッグウイング研修

「クリニック」とは表紙やレイアウト、構図、内容等が適切か等を診断して頂くものです。その結果、概ね高評価を頂きました。

9月27日に東京日経ホールにて、全国町村議会広報にも参加し、次の3点が講義内容でした。

- ●広報担当が知っておきたい法律知識
- ●なるほどそうか…知ってよかった！読者を夢中にさせる広報づくり基礎の基礎
- ●パッと伝わる広報紙に！やってはいけないデザイン講座

東京研修

何気なく載せてしまった写真やイラストが著作権等の侵害に当たる可能性や、広報づくりの分かり易い伝え方、デザインの字体で伝わり方の違いなど、「そうか」と納得させられることが多く有り、とても勉強になりました。これらを生かしながら、まだまだ課題はありますが、これからも読みやすいよう頑張っていきます。

〈広報常任委員長　早坂　民奈〉

新庁舎建設特別委員会　真室川町・河北町庁舎視察研修報告書

令和5年11月1日（水）議員8名による真室川町・河北町庁舎視察研修を行いました。

真室川町役場庁舎概要と特徴

庁舎施設概要

- ●敷地面積11,881.08㎡、延べ床面積3,710.55㎡、地上3階（庁舎）
- ●総工費　設計監理費、建設工事費（庁舎・車庫棟・エネルギー棟・渡り廊下）、用地取得費、　備品等整備、　2,148,541千円
- ●工期　平成31年3月7日～令和2年11月30日

＊全体がバリアフリー仕様の庁舎で、地震時の免震構造を備えた建物。

＊庁舎の構造は耐震性・建設費用・工期等の検討により鉄骨制振構造を採用した。

＊早期の防災拠点として整備の必要性と、内装材に町産材等の使用や木製備品等を導入している。

河北町役場庁舎概要と特徴

庁舎施設概要

- ●庁舎延床面積5,888.84㎡（建築面積1,913.37㎡）地上4階、
- ●鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造（耐震壁付ラーメン構造）
- ●総工費　（設計・庁舎・車庫棟・エネルギー棟）　2,676,541千円
- ●工期　平成31年4月1日～令和3年9月30日

＊「河北町新庁舎建設基本計画検討委員会」より機能について

①災害に強い庁舎②町民にやさしい庁舎③効率的な行政運営ができる庁舎④環境に配慮した庁舎、4点に重視を置いた建物です。

＊庁舎の天井構造に橋脚等に用いられる（プレキャストコンクリート）二次製品等を使用し耐震を高めワンフロアー全体に柱の数を減少させた構造が特徴です。

〈新庁舎建設特別委員会副委員長　斉藤　光雄〉

中学３年生の皆さん 議会傍聴ありがとうございます

中学生が議会傍聴に来てくれました。
どのように感じたのか、振り返りで、感想を頂きました。

- 国会での質問は関係ある人が答えるけど、村は村長さんがほとんど答え緊張感があって凄い。
- 議員さんも役場の人も住民のことや発展のために必死に考えてると感じた。住民を第一に考え議場に立っているところがかっこいいと思った。
- 質問が農業者だからこその視点で、傍聴している私たちも分かりやすかった。
- 実体験を元にメリットデメリットを考えて伝えていると感じ、白熱して議論していることが衝撃だった。
- 生徒議会では質問に対して「わかりました」としか答えないので議員の納得できるまで議論してる姿勢に見入ってしまった。
- 村の地形や地名を当たり前に覚えており、熱心に会話していると思った。
- 村での暮らしをもっと良くできるよう言いたいことをしっかり言い白熱した議論に驚いた。
- 意見の食い違いがあり、思うように伝わらないこともあった。
- 美しい村を作るために政治に参加するのは大変で、村民のために頑張ってくれていると感じた。
- たくさんの人がおり、空気が重かったが村のために熱く議論し、村のことをしっかり考えていた。
- 村の課題として自身の経験を含めて質問していた。選挙で選ばれた議員の考えが出されることで住民の意見が反映されていた。
- 議員の皆さんがそれぞれの職業や地区の課題を解決しようとしている姿が**かっこ**良かった。
- 地区の意見を反映しようとするのが凄いと思った。白熱した話し合いは村民のことを凄く考えられていると感じた。
- 私たちが身近に感じるものも話し合ってそれが日常になっているのを実感した。
- 生徒議会でも意見交流したり、内容を発展させたりして活発な協議を行うようにしたい。

その他、村の未来に対しての意見もありました。

- 大蔵といえば「トマト」それ以外もさらに広げるためにコンサートや花火大会など村外の人が来る場でPRすれば知ってもらえると思う。
- 四ケ村の棚田が特別なのが嬉しく、自慢です。村の魅力を広げられるよう何か始めたいと思った。
- 人口減少問題で若い世代の考えの大切さを知り、村を大切に社会に貢献できるようになりたい。

たくさんの意見を頂きましたが、すべてを載せることが出来ないのが残念です。議会として以前より傍聴して頂きたいと思っておりましたので、今回はとても嬉しいことでした。

編集後記

今年は、春の雪解けから全国で熊が出没し、人を襲い、小屋に入り食べ物をあさるニュースが毎日のように流れている。

村内でも13頭も捕獲され、捕獲してもまた足跡が。まだまだ生息しているようだ。

私の地区でも2頭捕獲され、50年前には考えられないことだ。当時、学校には山道を片道2キロほど歩いて通学した。帰りは熊を気にする事無く1人で帰ることが何度もあった。

熊は、山奥で暮らす動物と思っていたが、今は里で人間と一緒に生活している気がする。

山奥は食べ物が少ないのか、熊の生活スタイルが変わってきたのか。捕獲した熊肉を頂き食べたが、野生動物はどこかアクが強く食べない人もいる。料理次第ですごく美味しく食べられる。

熊さん、熊さん山奥で元気で餌を見つけて暮らしてね。里に出てくると食べられるよ。（須藤　敏彦）

議会広報常任委員会

委員長　早坂民奈
副委員長　斉藤光雄
委員　須藤敏彦
委員　伊藤貴之